

みちの会だより

第2号
1994年8月3日発行
地域開発みちの会

★ ありがとうございます & よろしくおねがいます ★

「みちの会だより1号」でお願いしましたアンケートにご協力頂きありがとうございました。配布数67、回収数50でした。励ましの言葉も添えて頂き、勇気づけられました。「まとめ」はそれぞれの学習会に大いに役立ったと思っています。

6月25日 学習会 エイズについて 講師 宮崎幸子氏 参加者26名
7月16日 学習会 夫婦別姓選択制について 講師 二宮純子氏 参加者31名

内容は学習会特集号として発行致しますが、エイズについての学習会では、感染しないための予防、感染者や患者への対応など、私たち一人一人が今後何をすべきか考えさせられました。また、夫婦別姓選択制では、姓を通して家族の中の人権を学びました。何れも今年のテーマ「新しい家族への創造」について学習できたと思います。

来る9月の大会では、静岡大学教育学部附属静岡中学校講師・滝井なみき氏をお招きし、「性ってなあに」の演題で講演して頂きます。性教育の現場から、子供の性や大人の性、家族の性そしてエイズについてお話頂けると思います。ぜひご参加下さいますようご案内致します。

日 時	9月17日	9:20~12:00	講演
		13:30~14:30	講師と会員の懇談
場 所	大府市石ヶ瀬会館		

♪ 楽しかった交流会 ♪

南知多町 若浦鈴子

私は南知多町内海地区で「婦人生活を考える会」に入っています。今までは、年に3~4回講師をお招きして学習をしてきました。今年は他県との交流学习をしようということになり、去る5月23、24日にかけて、8名の小人数で、岐阜県加茂郡東白川村（私の出身地）で婦人部の方たちと交流学习をいたしました。

内容は、村の因習、農業に関する事等でした。2日目は、役場職員の方、山案内人の方々のお世話で、山菜、若木採りを楽しみました。昼食には、空気の澄んだ山々を眺めながら、自分たちで五平餅を思い思いの形に作って炭火で焼き、アマゴ（川魚）の焼けるのが待ち遠しいくらいにして、ふうふうしながら、おいしくいただきました。

帰りには村長さんの奥様が、わらびと灰（あく抜き用）をお土産に下さいました。全員が大喜びで帰路につきました。

反省会では、わらびのあく抜きに二人が失敗したとの事、内一人は私、若浦でした。すごく楽しいひとときでした。



「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」報告

油田 淑子

時 平成6年7月13日13時～16時

所 国立教育会館（虎ノ門ホール）

水銀柱が30度を越える猛暑の中、全国から1500人が集い、「男女共同参画社会づくり」を話し合いました。ナポリサミットから帰られたばかりの村山首相が開会あいさつに立つと、会場からは、病後を労う温かい拍手がおくられ、党派を越えた女性たちの温かさとやさしさが感じられ、感動的でした。中西珠子氏、中村道子氏、縫田暉子氏のご挨拶では、女性問題の内外の取組が披露され、来年の北京大会への思いが高まりました。

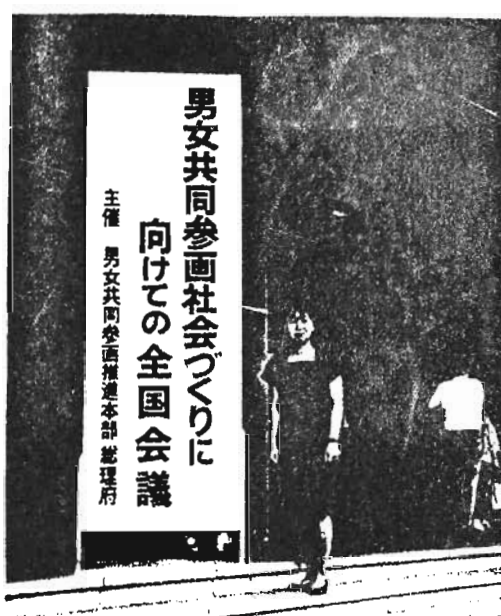
会議の冒頭に、久保田真苗参議院議員から「開発と女性」に関する第2回アジア太平洋閣僚会議の報告がありました。「会議で、慰安婦問題がでたが、北京大会では、日本の女性で戦争の清算をし、新たな友好を築き、アジアの女性を喜ばせたい。両院合わせ6.8%とはいえ52人の女性議員がいるのだから、超党派で相当のことをしたい。」と淡々ととした中にも、これからの取組への意欲を覗かせておられたことが特に印象的でした。

続いて行われたシンポジウムは、「学力」ならぬ「楽力」がついたとも言える楽しい会でした。パネリストの梅原猛国際日本文化センター所長と諸井虔秩父セメント会長の主張に樋口恵子氏がユーモアにとんだ話術で、時には温かく、時には鋭く、熱っぽく突っ込み、会場はしばしば笑いにつつまれました。フェミニストを自認する梅原氏は、「奈良時代には女帝が国の基を築き、今また、日本には、女性の活躍が不可欠である。男・女・外国人等多様性の中でこそ創造性が生まれる」と語られました。また諸井氏は

「女性登用と男性の家事・地域活動参加の必要性」を指摘されました。両氏のように女性に理解があり、洞察力にとんだ男性ばかりなら、日本ももっと良くなるのにと考えた次第です。

会場からの核心をついた質問にも頷くことが多く、新幹線代は高いけど、参加した甲斐がありました。みちの会から参加した4人は、外の暑さに負けない、内からの熱い思いを共通に持ち帰ることができたと思います。みちの会のみなさん、「当たり前」「仕方がない」と決めつけしないで、根っこのところから考えてみませんか。

(参加者 油田 星 戸田 渡辺(順))



会場前にて

福祉国家スウェーデンを旅して

服部 紀子

同じ20世紀の同じ地球という星にあるスウェーデンと日本。前者は福祉先進国であり、後者は経済的には目覚ましい発展を遂げたが、福祉において後進国である。この二つの国はいったい何処が違うのか？ 私はこの疑問を解きたくて二度目のスウェーデンを訪れた。ストックホルムへの到着は6月11日（土）。夕方の7時というのに太陽は頭上でサンサンと輝いていた。

この旅の企画に集まったメンバーは私を含め17名で、障害者、超高齢者（91歳）、福祉の現場で働く人、ボランティア、身内の介護をする人等々。1年半前から学習を積み重ねて施設（ナーシングホーム、サービスハウス、アル中のグループホーム、痴呆性老人のグループホーム、補助器具センター）視察、社会保険庁訪問、夜間パトロール同伴、在宅ケアの実態視察、そして生活協同組合（KF）の訪問などを計画した。その結果皆自分自身の目、耳、体で体験することが出来たことに強く感動した。

☆ 合理的で理想的な教育制度

スウェーデンでは育児休業、両親休暇などによって子供を産んで育てるチャンスを、仕事に就くのと同様に保障している。つまり子供も仕事も人生には必要なものである。仕事のために子供はもとより、結婚すら諦める日本の女性とは天地程の差がある。今や1.46ショックに留まらず益々少子化現象は進むのではなからうか。

社会保険庁の役員は「学校や社会では『ケアに必要な人は社会全体で責任を負う義務がある』と教育している」という。この国では『障害』の認識が広範囲で、例えば小さい子供を抱いた母親を『手が自由に使えないから障害がある』と考え、また私達のような外国人を『スウェーデン語を話せないから障害がある』と考える。そして、そんな障害を取り除く（＝バリアフリー）努力を惜しまない。古い建築物の多い国だが、階段には必ず乳母車用にスロープが



雨の日でも自由に遊ぶ子供

設けてあり、鉄道車両なども『乳母車可』としてあった。また外国人にはスウェーデン語はもとより母国語まで無料で教えている。幼児は遊ばせる必要があると考え、就学年齢は満7歳と遅い。9年間の義務教育の上に専門コースの高等学校がある。日本のように普通科という曖昧なコースはない。高校卒業（18歳）と同時に選挙権を持つレッキとした成人であり、ミニ専門家ということになる。卒業したての18歳成人は、成人したお祝いの印の白い帽子を得意気にかぶり、街を闊歩していた。もちろん受験戦争などある筈もなく、家庭内暴力、イジメ、登校拒否、憐れなオチコボレなどを産む土壌は何処にもない。一人一人が思いきり好きな勉強、仕事、スポーツそして芸術にいそしむ幸せがあり。自然に親しむゆとりがある。そこから他人や環境への思いやりが育っていくのであろう。高校卒業後就職しても、専門を究めたいと望めば何時でも大学へ進学することができる。この費用も無料で全て税金でまかなわれる。因みにスウェーデン国民の教養レベルは世界一高いということである。

☆ 選挙投票率90%!

教養の高いスウェーデン国民は、政治にも強い関心を示している。それは選挙の投票率が実に90%ということでも頷ける。自分達の国の将来を国民一人一人が自分の目で確かな選択をしていく。だから政治に対する信頼関係が成り立っている。経済、外交、防衛などについては国家で、福祉や教育、文化など生活全般については地方（コミューン）でという政治的役割分担が確立している。9月には選挙が行われる予定であるが、女性議員の数を現在より増やす努力がなされていた。マスコミは毎月有権者のアンケート調査を実施して、選挙の行方を予想し報道しているという。社会全体が政治の場への女性の参画を望んでいる。

スウェーデンでは、現在の日本に欠けている二つの点、即ち『教育システム』『女性の政治参加』が理想的に行われていることがよく分かった。



——お知らせ——

☑平成6年度愛知県国際交流
女性海外派遣団員決まる
派遣先 タイ・インドネシア
(10月の10日間)
半田市 青木圭子さん
阿久比町 渡辺順子さん
みちの会だよりの紙面を開けて
みやげばなし待ってます☑

♥♥♥ 募集 ♥♥♥

「愛知県女性総合センター（仮称）」は、考え、ふれあい、創造する、県民の皆さんの、コミュニケーション拠点。平成8年の開館をめざして、建設が進んでいます。このセンターがより多くの皆さんに愛され、親しまれる施設となるよう、愛称を募集します。（愛知県総務部）

*応募締切 平成6年9月12日（月）

*賞 優秀賞1点賞金10万円（または記念品）

詳細は、鷹羽（0562-47-2409）星（052-601-2158）

近藤（052-832-0211）



編集後記

冷たさや のどにしみいる ビールかな

酷暑が続いておりますが、元気にお過ごしでしょうか。

2号には、会員の皆さまから寄せられた活動記事を載せることができ、担当者一同うれしく思っています。「たより」が皆様の交流のかてになればと思いますので、是非、活動報告や情報をお寄せ下さい。お待ちしております。

暑さ厳しき折柄、呉々もご自愛下さい

☆

3/6 千前中に、んんぬと有
名な半田市の新美南吉記念館
を見学しました。
片山館長さんから作品とその
生涯のお話を聞き、童心にかえっ
て心なごむひとときを過ごした。

五月の太陽
南吉

五月の朝の太陽は
はれぎよ
晴衣としたぬ春に
金の、うらもをかいてやる

青木さんお世話下さり
ありがとうございました

